

平成14年度漁協青壮年部巡回移動相談実施

中 村 勇 次

1. 目的

近年、漁業技術の高度化や栽培養殖技術の普及定着化、さらには資源管理に基づいた計画的な漁場利用、営漁計画等に基づいた適切な漁家経営、高度な知識や技術の習得、地域の協同意識等青壮年部・青年漁業士等には、より一層の資質の向上が求められている。このように、地域の問題解決や新たな漁業技術の開発等を積極的に推進していくには、青壮年部や青年漁業士を中心とした各漁業種類別の部会や班を設置し研究活動を活発にしていく必要がある。そのためには、活動の目標を明確にし新しい協同意識を高めつつ、漁協と青壮年部の横の関係を重視し共通性に基づく連帯活動が青壮年部活動の基本である。

そのようなことに鑑み、青壮年部の移動相談を通して活動の実態等を把握し、今後の青壮年部活動を支援し方向性をみいだすために同計画を実施した。

2. 巡回相談目標

- 1) 各青壮年部を巡回し、青壮年部活動を積極的に支援する。
- 2) 年度毎に活動の実態を調査し、実態に即した組織活動のあり方等を指導する。
- 3) 生産部会、班設置に向けた活動計画の作り方等を積極的に指導する。
- 4) 同移動相談に当たっては、指導漁業士等を積極的に参画させ、指導助言を仰ぐ。
- 5) 移動相談終了後、一年間の総括として部長事務局会議を開催する。

3. 対象

毎年、漁青連に加入している漁協青壮年部を

対象に行っているが、今年度については、恩納村・知念村・久米島・伊良部・沖縄市・与那国・八重山で移動相談を実施した。石川市・港川・伊江・糸満・勝連・那覇沿岸については日程調整がつかず未実施であった。

4. 平成14年度巡回相談内容

1) 青壮年部活動についての意見交換

ア. 平成13年度部長事務局会議（総括会議）
経過報告

イ. 各青壮年部活動状況報告

2) 水産試験場情報提供

ア. オゴノリ網養殖について

・・・増殖室 諸見里 聡

イ. マグロ鮮度保持について

・・・漁業室 太田 格

ウ. ソデイカ流通状況調査について

・・・漁業室 加藤 美奈子

5. 活動計画作成の実施

青壮年部活動計画を作成し、活動計画のモデルを作りマンネリ化した青壮年部活動の支援と漁協の活性化、ひいては各青壮年部への波及効果を図る目的で実施する。

6. 日程（平成14年7月～平成15年3月）

| 青壮年部 | 開催日 | 青壮年部 | 開催日 |
|--------|-------|-------|--------|
| 石川市漁協 | 未実施 | 恩納村漁協 | 7月26日 |
| 沖縄市漁協 | 2月27日 | 勝連漁協 | 未実施 |
| 伊江漁協 | 未実施 | 那沿岸漁協 | 休部 |
| 港川漁協 | 11月5日 | 久米島漁協 | 12月7日 |
| 糸満漁協 | 未実施 | 知念村漁協 | 11月5日 |
| 八重山漁協 | 3月20日 | 伊良部漁協 | 12月11日 |
| 与那国町漁協 | 3月19日 | | |

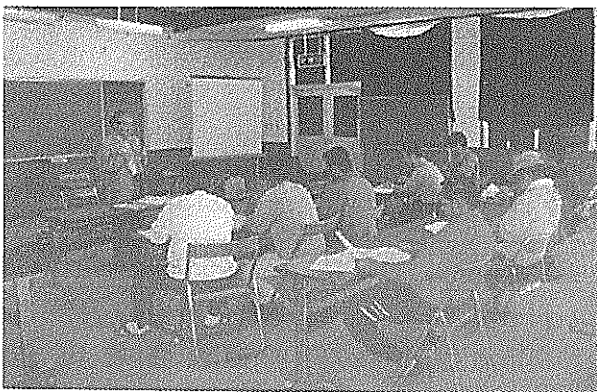
※青壮年部担当事務局は、巡回指定日を青壮年部、漁業士等へ連絡方お願いします。

7. 実施及び協力機関

- 1) 実施機関：水産試験場普及センター
電話 098 (994) 4304
担当：中村
- 2) 協力機関：沖縄県漁業協同組合連合会
漁政企画課

8. 実施内容

- 1) 恩納村漁協青壮年部
7月26日(金) 参加者9名
恩納村においては、青壮年部は40歳で年齢制限を設けており、それにより組織の新陳代謝を図っているとのこと。今回の移動相談では、生産に結びつく情報提供を求めて呼びかけを行ったとのこと。
- 2) 知念村・港川漁協青壮年部
11月5日(火) 参加者12名
今回は、農業専技の本村氏を迎えて知念村・港川で合同移動相談を行う予定であったが知念村のみの参加となった。本村専技より「青壮年部活動について」の講演をして頂いた。



3) 久米島漁協青壮年部

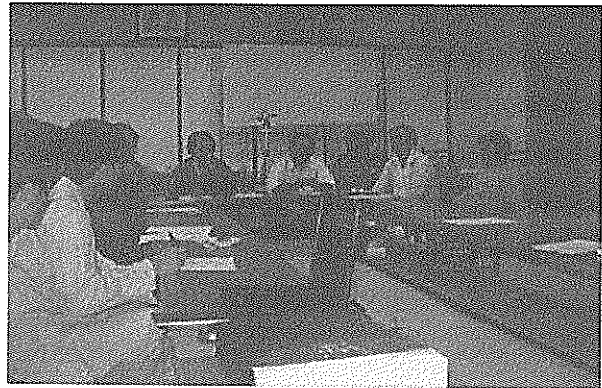
12月7日(土) 参加者15名
青壮年部の忘年会に併せて日程調整を行ったが、なかなか部員が集まらず、質疑応答も少なく移動相談は終了したが、終了後の懇親会では活発な意見交換があ



4) 伊良部町漁協青壮年部

12月11日(水) 参加者11名

伊良部町漁協青壮年部は近年活動が停滞気味であったが体験学習等の依頼が増えてきており、これに積極的に対応している。水試情報提供にも積極的な質疑応答があった。



5) 沖縄市漁協青年部

2月27日(木) 参加者9名

沖縄市では、市役所の漁業者研修事業(水産関連勉強会)と一緒に開催することとなった。最近、活動が停滞してきており、月に1回集まりを持って今後の活動について話し合っていくことにした。



6) 与那国町漁協青壮年部

3月19日(水) 参加者8名

与那国では、普及員と行っているシャコ貝養殖試験が主な活動とのこと。与那国は地理的なハンデを抱えているため、他地区と同じようなことをするよりもインターネットを活用した独自の取り組みをしていきたいとのこと。



7) 八重山漁協青壮年部

3月20日(木) 参加者10名

八重山漁協青壮年部の活動として、トライアスロンへの協力や年2回の海浜清掃等を行っているとのこと。ソデイカの時期に県外船が近海まで来て漁をするため困っているとのこと。また、帆掛けサバニの操船技術の継承のため、帆掛けサバニを建造できる事業がないかとのこと。



うな活動をしている部会が少ないようであった。たしかに地域活動も大事ではあるが、ボランティア的な活動ばかりではマンネリ化してしまい、活動が停滞してくることが多い。やはり、青壮年部として活発な活動を進めていくには、きちんとした方向性をもって生産に結びつく活動をしていくことが大事である。しかし、具体的にどのような活動をすればよいかとなった場合に、青壮年部で生産に結びついている活動例がないのが現状である。例として、ある青壮年部が、シャコ貝(ヒメジャコ)の埋め込み放流を行っていたが、せっかく埋め込んだシャコ貝が収穫前に密漁にあってしまい、この地区では現在シャコ貝の放流は行っていない。また、生産活動をする場合、部員同士で行っている漁業種類が異なるためどうしても合わない部分が出てきてしまう。そのようなこともあってか、青壮年部の活動実績として地域活動等があがってきてしまうのだろうか。このような厳しい現状ではあるが、普及センターとしてはその中でも頑張っ活動している青壮年部をこれからも支援していきたい。

9. 所感

各青壮年部を巡回してみて、どこも活動の方向性等で苦慮しているのが見受けられた。また、活動としても地域のイベントや港内清掃等のボランティア的な要素が強く、生産に結びつくよ